

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
26

2011

◎特集 **地域医療に必要とされ、期待される人材を**



患者から学び、患者に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

全国でも屈指の臨床能力の高い若手医師を育てる

総合臨床研修センター長 高田清式 医師



実践に即した、高性能麻酔シミュレーター。

当院では、平成22年4月より県立病院の若手医師を対象とした研修プログラム「県立病院医師臨床能力ステップアップ研修開発事業」をスタートさせました。このプログラムは、県立病院に勤務する卒業10年以内の医師を主な対象とし、若手医師の医療技術の向上と確保を目的としています。

現在、愛媛県でも医師不足等により地域医療の現場は極めて厳しい状況にあります。こうした状況において、全ての患者に対して初期対応を総合的にに行い得る、基本的な臨床能力・プライマリケアの診

察能力が高い医師の育成が求められています。このような医師の育成を、県唯一の医師養成機関であり、また臨床教育に関して豊富な知識を有している当院が担うこととなりました。

県からの補助も受け、研修を実施する「総合臨床研修センター」を拡充し、研修の担当助教と補助職員を増員、またシミュレーター実践教育のためVIST（血管内インターベンションシミュレーショントレーナー）も購入しました。総合臨床研修センターでは、若手医師の附属病院での実地研修の具体的な研修内容の設定やシミュレ



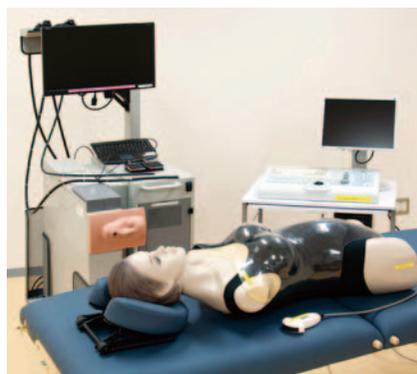
PROFILE

ただきよりのり◎大阪府出身、愛媛大学医学部卒業。1981年から愛媛大学医学部で研修医。専門分野は消化器内科学、感染症をはじめとした総合内科医。松山市エイズ対策推進協議会会長、愛媛県感染対策協議会副会長。2005年、総合臨床研修センター専任助教として就任、2007年同センター専任教授。趣味は愛犬・アラスカン・マラミュートの散歩。

ーターによる実践教育における実地指導、救急処置セミナー・講習会の運営等を行っています。

今年1月には、VISTを用いた血管内治療シミュレータートレーニングセミナーを開催し、実際の医療現場さながらの血管内治療のトレーニングを実施することができました。また、3月には救急救命処置研修ICLS（日本救急医学会の蘇生トレーニングコース）講習会を実施し、この講習会には25人の愛媛大学医学部附属病院を含めた県内病院の若手医師等が参加しました。今後も、医学教育用シミュレーターによる実習や、県内若手医師公開カンファレンス、救命救急処置講習会等を実施していく予定です。

医師不足は県立病院だけの問題ではなく、県全体の問題です。優秀な医師の確保には、臨床研修等の教育体制の充実が欠かせません。県立病院における若手医師の確保と医療技術の向上を支援し、地域で幅広い診療を行える医師の育成を図ることで、地域医療の向上に貢献していきたいと思っています。



内視鏡シミュレーター(左)と超音波トレーニングシミュレーター。



担当助教1名、職員1名と人員も拡充。

災害時初期対応は、自分で考え、必ず自らが行動することが必要

副病院長(救急部 部長) 相引眞幸 医師



防護服を身にまとい、本番さながらの二次被曝訓練。



PROFILE

あいびきまゆき◎愛媛大学大学院医学系研究科・救急侵襲制御医学教授、附属病院救急部部长。1954年、愛媛県生まれ。1978年金沢医科大学医学部卒業、医学博士。救急医療、集中治療を専門に活躍する。

平成23年7月16日に、地震発生を想定した大規模災害訓練を実施しました。今回の訓練では、休日の午前9時半に震度6強の地震が発生し、伊方原発が被災したという想定のもと行われました。本学教職員、東温市職員、東温市消防署職員、東温市災害支援ボランティアなど総勢400人余りが参加しました。

愛媛大学では以前より災害訓練を行ってきましたが、内容は消火活動が主な防火訓練でした。4年前より医療対応訓練を取り入れ、年々医療対応を主とする訓練ヘシフト。今回の訓練では、トリアージ訓練や患者・職員等の安全確認、ライフラインの確

保など、セクションごとに様々な訓練を行いました。また、3月11日に発生した東日本大震災をふまえ、伊方原発二次災害による被曝者の受け入れを想定し、防護服を身に付けての治療や除染対応についても訓練を実施しました。

さらに今回は、各部署に訓練の詳細なシナリオはあえて提示せず、自分たちで初期行動計画を考えてもらいました。訓練の前に、各部署からメンバーを集めてワーキンググループをつくり、それぞれ行動計画を作成・精査してもらったのです。行動計画を自分たちで考えるということが、今回の訓練の重要なポイントでした。普段とは

全く違う視点で考えてもらったことで、実際に災害が起きた時にどう動けば良いのか、またどんな備えをしておかなくてはならないのか様々な意見・問題点が出てきました。実際に災害が起きた際、災害対策本部が設置されるまでには1時間程度の時間がかかります。その1時間で自分は何をしてどう動けば良いのかを、行動計画の作成を通して考えてもらえたと思います。

訓練後の7月26日には、訓練を振り返る検討会を実施し、約80人が参加して意見を交わしました。連絡体制や患者搬送のリスクなど、訓練をしてみて明らかになった問題点については、今後改善していく必要があります。

今回の訓練は東日本大震災の影響もあってか、例年以上に熱が入っていたように感じます。また、「自分で考えて自ら行動する」という意識づけができた訓練となりました。今後は県や東温市との連携強化やさらに実践に近づけた訓練を行い、災害拠点病院として災害への備えを万全にします。



情報伝達の訓練。



災害支援ボランティアによる炊き出し訓練。

若い医師が集う、魅力ある環境作りから

心臓血管呼吸器・再生外科学 泉谷裕則 教授



当科は、成人心臓、小児心臓、血管外科、呼吸器外科の4グループで診療しています。専門診療科の性格上、他部門との連携と協働が必要です。また、研修医数の増加、専門医の育成、高度医療の実践など、先進的な医療とハイリスク患者の診療を積極的に行い、大学病院だけでなく県全体のレベルアップに繋げていきたいです。そのためには、地域循環器病患者の包括的で全人的な診療と、チーム医療がキーになります。特にチーム医療では、医師と看護師の連携強化、愛媛大学版ナースプラクティショナーの導入を手がけます。研究と教育のどちらもしっかりとし、患者さんから選ばれる病院づくりと治療成績の向上に努めていきたいです。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

南海放送が
本院の特別番組を
放映

平成23年7月2日(土)に、南海放送テレビで「大学病院改革の息吹をとらえた! ~愛媛大学医学部附属病院・最前線~」と題して、本院を取材した30分番組が放映されました。内容は、病院長と看護部長のインタビューを基に構成され、小児病棟の改革等5件が紹介されました。また番組内では、愛媛大学と附属病院のCMも流れ、大変好評でした。

総務課総務チーム

☎089-960-5125

☎089-960-5131

七夕コンサートの開催



平成23年7月11日(月)午後5時から、本院の外来ロビーにおいて、恒例の七夕コンサートを開催しました。今年は「坊っちゃん劇場」(東温市)が、季節の歌声と話題の「誓いのコイン」のさわりの部分を披露してくれました。「誓いのコイン」は、昨年、松山城の井戸から見つかったコインをモチーフにした新作ミュージカルです。集まった約100人の患者さん達には、楽しく、感動的な夏のひとときになりました。

医療サービス課医療福祉推進チーム

☎089-960-5099 ☎089-960-5099

関連病院長会議主催講演会を実施



平成23年7月9日(土)、臨床第3講義室において愛媛大学医学部関連病院長会議主催講演会が開催されました。例年は3月に総会が開催されていますが、今年は複数の教員が新たに教授に就任したため、ご挨拶を兼ねて講演会を開催する運びとなりました。講演会では、今年4月より感覚皮膚医学に就任した佐山浩二教授をはじめ、田淵典子看護部長、厚生労働省保険局医療課の迫井正深氏が演壇に立ち、出席頂いたおよそ130名の医師達は熱心に耳を傾けておられました。

総務課総務チーム

☎089-960-5125 ☎089-960-5131

編集後記

今年はスーパー残暑だとかで、秋は来るんだろうかと思っていました。が、気が付くと大学周辺には彼岸花が咲き、稲穂が頭を垂れ、樹木の一部が紅葉を始めています。日本全体としては震災からの復興が始まっています。私たちが持ち場である愛媛県の医療復興に、更に尽力すべき時でしょう。この度、愛媛県の支援によって大学に地域医療支援センターが完成しました。愛媛大学は愛媛県唯一の医師育成機関であり、地域貢献を重視し責任を果して来ました。これからもセンターの活用によって、地域医療に貢献する優秀な医師を数多く輩出し、愛媛の医療に豊かな実りを与える日を実現したいと思っています。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣實男

◎表紙

8月に完成した地域医療支援センターと開所式



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>